

発達障がい児者支援に係る府民アンケート調査について

1 調査目的

府では、平成30年3月に「新・発達障がい児者支援プラン」(計画期間:平成30年度～令和2年度の3年間)を策定し、発達障がい児者の支援を行っている。計画期間満了後の新プランの効果を検証するため、社会的な発達障がいへの理解度や、それに基づく合理的配慮がどの程度理解され、受け入れられているのか、その現状を把握し、今後の発達障がい児者支援施策検討の参考とする。

2 アンケート方法

・ 民間調査会社に登録するネットアンケートモニターを活用し、国勢調査結果(平成27年)に基づき、性・年代・居住地(4地域)の割合で割り付けた18歳以上の大阪府民1,000サンプル。

大阪市域:大阪市

北部大阪地域:豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町

東部大阪地域:守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市

南部大阪地域:堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、富田林市、河内長野市、松原市、和泉市、羽曳野市、高石市、藤井寺市、泉南市、大阪狭山市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町、太子町、河南町、千早赤阪村

・ インターネットによるアンケート調査(「おおさかQネット」)を実施。

(注)「おおさかQネット」の回答者は、民間調査会社に登録されたインターネットモニターであり、回答者の構成は無作為抽出サンプルのように「府民全体の縮図」ではない。そのため、アンケート調査の「単純集計(参考)」は、無作為抽出による世論調査のように「調査時点での府民全体の状況」を示すものではなく、あくまで本アンケートの回答者の回答状況にとどまる。

3 アンケート実施時期

令和3年7月16日(金)～7月18日(日)

4 その他

次頁以降の表は、平成29年度と令和3年度の標記調査の集計結果を比較したもの。

Q1 あなたの家族構成について、あてはまるものをすべて選択してください。（複数回答）

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100	1000	100.0
1	未就学児の子どもがいる	93	9.3	76	7.6
2	小学生の子どもがいる	70	7	59	5.9
3	中学生の子どもがいる	47	4.7	43	4.3
4	高校生の子供がいる	59	5.9	51	5.1
5	高校生以下の子どもはいない	792	79.2	825	82.5

Q2 あなたは、「発達障がい」について知っていますか。

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100	1000	100.0
1	言葉も内容も知っている	477	47.7	480	48.0
2	聞いたことはあるが、内容はよく知らない	460	46	440	44.0
3	知らない	63	6.3	80	8.0

◎上記設問1「言葉も内容も知っている」の年代別割合

(H29)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	4	2	50.0%	0.4%
20代	144	90	62.5%	18.9%
30代	149	78	52.3%	16.4%
40代	185	88	47.6%	18.4%
50代	137	63	46.0%	13.2%
60代	295	123	41.7%	25.8%
70代	80	31	38.8%	6.5%
80代	6	2	33.3%	0.4%
	1000	477		

◎上記設問1「言葉も内容も知っている」の年代別割合

(R3)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	11	8	72.7%	1.7%
20代	137	75	54.7%	15.6%
30代	149	72	48.3%	15.0%
40代	185	87	47.0%	18.1%
50代	137	55	40.1%	11.5%
60代	228	109	47.8%	22.7%
70代	136	63	46.3%	13.1%
80代	17	11	64.7%	2.3%
	1000	480		

Q3 Q2で「言葉も内容も知っている」、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」と回答した方に伺います。発達障がいに関する以下の内容について、あなたが知っているものはありますか。あてはまるものをすべて選択してください。（複数回答）

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		937	100	920	100.0
1	生まれつきの発達特性であり、親のしつけや家庭環境、ストレス等とは関係ない	600	64.0	584	63.5
2	相互的な対人関係や、表情やしぐさから相手の感情を読み取ることなどに困難が見られることがある	560	59.8	509	55.3
3	興味や行動の偏り・こだわりが見られることがある	565	60.3	544	59.1
4	注意欠如や多動性が見られることがある	620	66.2	562	61.1
5	読む、書く、計算するなど、学習に必要な能力の一部に極端な困難が見られることがある	538	57.4	510	55.4
6	チックや吃音が見られることがある	304	32.4	279	30.3
7	公立小中学校の通常の学級に在籍する児童生徒のうち、発達障がいの可能性があり特別な教育的支援を必要とすると思われる児童生徒は約6.5%を占める	149	15.9	134	14.6
8	上記の内容について知っているものはなかった	114	12.2	118	12.8

Q4 Q2で「言葉も内容も知っている」、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」と回答した方に伺います。発達障がいについて、何で見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選択してください。（複数回答）

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
	全体	937	100.0	920	100.0
1	テレビ、ラジオ	608	64.9	594	64.6
2	新聞、雑誌	301	32.1	239	26.0
3	インターネット	302	32.2	282	30.7
4	授業や講習、セミナー、シンポジウムなどのイベント	115	12.3	111	12.1
5	学校や職場等における発達障がい者に関する啓発・説明	150	16.0	141	15.3
6	官公庁からの広報物（チラシ、ポスター等）	43	4.6	34	3.7
7	その他団体の啓発チラシ、ポスター	41	4.4	33	3.6
8	家族、友人・知人から	283	30.2	235	25.5
9	その他	28	3.0	17	1.8
10	覚えていない	69	7.4	92	10.0

◎上記設問1「テレビ、ラジオ」

(R3)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	11	7	63.6%	1.2%
20代	137	68	49.6%	11.4%
30代	149	83	55.7%	14.0%
40代	185	104	56.2%	17.5%
50代	137	67	48.9%	11.3%
60代	228	154	67.5%	25.9%
70代	136	98	72.1%	16.5%
80代	17	13	76.5%	2.2%
	1000	594		

◎上記設問2「新聞、雑誌」

(R3)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	11	2	18.2%	0.8%
20代	137	16	11.7%	6.7%
30代	149	26	17.4%	10.9%
40代	185	33	17.8%	13.8%
50代	137	31	22.6%	13.0%
60代	228	70	30.7%	29.3%
70代	136	51	37.5%	21.3%
80代	17	10	58.8%	4.2%
	1000	239		

◎上記設問3「インターネット」

(R3)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	11	1	9.1%	0.4%
20代	137	46	33.6%	16.3%
30代	149	69	46.3%	24.5%
40代	185	73	39.5%	25.9%
50代	137	33	24.1%	11.7%
60代	228	37	16.2%	13.1%
70代	136	20	14.7%	7.1%
80代	17	3	17.6%	1.1%
	1000	282		

◎上記設問4「授業や講習、セミナー、シンポジウムなどのイベント」

(R3)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	11	3	27.3%	2.7%
20代	137	30	21.9%	27.0%
30代	149	23	15.4%	20.7%
40代	185	18	9.7%	16.2%
50代	137	13	9.5%	11.7%
60代	228	15	6.6%	13.5%
70代	136	9	6.6%	8.1%
80代	17	0	0.0%	0.0%
	1000	111		

◎上記設問5「学校や職場等における発達障がい者に関する啓発・説明」

(R3)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	11	2	18.2%	1.4%
20代	137	33	24.1%	23.4%
30代	149	27	18.1%	19.1%
40代	185	24	13.0%	17.0%
50代	137	13	9.5%	9.2%
60代	228	26	11.4%	18.4%
70代	136	16	11.8%	11.3%
80代	17	0	0.0%	0.0%
	1000	141		

◎上記設問6「官公庁からの広報物」

(R3)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	11	0	0.0%	0.0%
20代	137	5	3.6%	14.7%
30代	149	5	3.4%	14.7%
40代	185	4	2.2%	11.8%
50代	137	5	3.6%	14.7%
60代	228	9	3.9%	26.5%
70代	136	5	3.7%	14.7%
80代	17	1	5.9%	2.9%
	1000	34		

◎上記設問7「その他団体の啓発チラシ、ポスター」

(R3)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	11	0	0.0%	0.0%
20代	137	3	2.2%	9.1%
30代	149	4	2.7%	12.1%
40代	185	5	2.7%	15.2%
50代	137	4	2.9%	12.1%
60代	228	7	3.1%	21.2%
70代	136	9	6.6%	27.3%
80代	17	1	5.9%	3.0%
	1000	33		

◎上記設問8「家族、友人・知人から」

(R3)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	11	4	36.4%	1.7%
20代	137	28	20.4%	11.9%
30代	149	29	19.5%	12.3%
40代	185	37	20.0%	15.7%
50代	137	33	24.1%	14.0%
60代	228	57	25.0%	24.3%
70代	136	43	31.6%	18.3%
80代	17	4	23.5%	1.7%
	1000	235		

●集約表

(R3)年代	1	2	3	4	5	6	7	8
10代	63.6%	18.2%	9.1%	27.3%	18.2%	0.0%	0.0%	36.4%
20代	49.6%	11.7%	33.6%	21.9%	24.1%	3.6%	2.2%	20.4%
30代	55.7%	17.4%	46.3%	15.4%	18.1%	3.4%	2.7%	19.5%
40代	56.2%	17.8%	39.5%	9.7%	13.0%	2.2%	2.7%	20.0%
50代	48.9%	22.6%	24.1%	9.5%	9.5%	3.6%	2.9%	24.1%
60代	67.5%	30.7%	16.2%	6.6%	11.4%	3.9%	3.1%	25.0%
70代	72.1%	37.5%	14.7%	6.6%	11.8%	3.7%	6.6%	31.6%
80代	76.5%	58.8%	17.6%	0.0%	0.0%	5.9%	5.9%	23.5%

Q5 Q4で「授業や講習、セミナー、シンポジウムなどのイベント」と回答した方に伺います。発達障がいについてのイベントはどこで行われたものですか。参加されたものをすべて選択してください。（複数回答）

	回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体	115	100.0	111	100.0
1 学校の授業で	65	56.5	60	54.1
2 公的機関や地域が主催するセミナーやシンポジウム	51	44.3	39	35.1
3 NPO法人等、その他の団体が主催するセミナー	37	32.2	32	28.8
4 その他	10	8.7	2	1.8
5 覚えていない	8	7.0	9	8.1

Q6_1 それぞれの障がいについて、あなたの考え・行動にあてはまるものを、全て選択してください。／身体障がい（複数回答）

	回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体	1000	100.0	1000	100.0
1 どのような障がいか理解している	578	57.8	605	60.5
2 相手にその障がいがあるか判断できる	411	41.1	381	38.1
3 相手にとっての社会的障壁をイメージできる	291	29.1	263	26.3
4 社会的障壁を取り除くための配慮をイメージできる	206	20.6	191	19.1
5 実際にサポートや声掛けを行ったことがある	162	16.2	140	14.0
6 左記にあてはまるものはない	224	22.4	234	23.4

◎上記設問3及び4について、両方ともできると答えた人の割合

(H29)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	4	1	25.0%	0.6%
20代	144	26	18.1%	15.5%
30代	149	19	12.8%	11.3%
40代	185	37	20.0%	22.0%
50代	137	21	15.3%	12.5%
60代	295	51	17.3%	30.4%
70代	80	13	16.3%	7.7%
80代	6	0	0.0%	0.0%
	1000	168	16.8%	

(R3)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	11	2	18.2%	1.2%
20代	137	24	17.5%	14.5%
30代	149	20	13.4%	12.1%
40代	185	32	17.3%	19.4%
50代	137	20	14.6%	12.1%
60代	228	50	21.9%	30.3%
70代	136	15	11.0%	9.1%
80代	17	2	11.8%	1.2%
	1000	165	16.5%	

Q6_2 それぞれの障がいについて、あなたの考え・行動にあてはまるものを、全て選択してください。／知的障がい（複数回答）

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100.0	1000	100.0
1	どのような障がいか理解している	564	56.4	586	58.6
2	相手にその障がいがあるか判断できる	323	32.3	262	26.2
3	相手にとっての社会的障壁をイメージできる	249	24.9	215	21.5
4	社会的障壁を取り除くための配慮をイメージできる	119	11.9	76	7.6
5	実際にサポートや声掛けを行ったことがある	91	9.1	62	6.2
6	左記にあてはまるものはない	256	25.6	259	25.9

◎ 上記設問3及び4について、両方ともできると答えた人の割合

(H29)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	4	0	0.0%	0.0%
20代	144	14	9.7%	15.7%
30代	149	9	6.0%	10.1%
40代	185	21	11.4%	23.6%
50代	137	10	7.3%	11.2%
60代	295	27	9.2%	30.3%
70代	80	8	10.0%	9.0%
80代	6	0	0.0%	0.0%
	1000	89	8.9%	

(R3)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	11	1	9.1%	1.6%
20代	137	9	6.6%	14.1%
30代	149	8	5.4%	12.5%
40代	185	12	6.5%	18.8%
50代	137	5	3.6%	7.8%
60代	228	18	7.9%	28.1%
70代	136	10	7.4%	15.6%
80代	17	1	5.9%	1.6%
	1000	64	6.4%	

Q6_3 それぞれの障がいについて、あなたの考え・行動にあてはまるものを、全て選択してください。／精神障がい（複数回答）

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100.0	1000	100.0
1	どのような障がいか理解している	467	46.7	507	50.7
2	相手にその障がいがあるか判断できる	171	17.1	149	14.9
3	相手にとっての社会的障壁をイメージできる	191	19.1	162	16.2
4	社会的障壁を取り除くための配慮をイメージできる	94	9.4	55	5.5
5	実際にサポートや声掛けを行ったことがある	65	6.5	33	3.3
6	左記にあてはまるものはない	358	35.8	355	35.5

◎ 上記設問3及び4について、両方ともできると答えた人の割合

(H29)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	4	0	0.0%	0.0%
20代	144	10	6.9%	16.7%
30代	149	8	5.4%	13.3%
40代	185	12	6.5%	20.0%
50代	137	8	5.8%	13.3%
60代	295	17	5.8%	28.3%
70代	80	5	6.3%	8.3%
80代	6	0	0.0%	0.0%
	1000	60	6.0%	

(R3)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	11	1	9.1%	2.6%
20代	137	10	7.3%	25.6%
30代	149	8	5.4%	20.5%
40代	185	4	2.2%	10.3%
50代	137	3	2.2%	7.7%
60代	228	10	4.4%	25.6%
70代	136	3	2.2%	7.7%
80代	17	0	0.0%	0.0%
	1000	39	3.9%	

Q6_4 それぞれの障がいについて、あなたの考え・行動にあてはまるものを、全て選択してください。／発達障がい（複数回答）

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100.0	1000	100.0
1	どのような障がいか理解している	464	46.4	492	49.2
2	相手にその障がいがあるか判断できる	198	19.8	156	15.6
3	相手にとっての社会的障壁をイメージできる	204	20.4	155	15.5
4	社会的障壁を取り除くための配慮をイメージできる	107	10.7	76	7.6
5	実際にサポートや声掛けを行ったことがある	99	9.9	44	4.4
6	左記にあてはまるものはない	359	35.9	371	37.1

◎ 上記設問3及び4について、両方ともできると答えた人の割合は、51人（5.1%）

平成29年度の調査結果：7% ⇒ 令和2年度（目標値）：16%

(H29)年代	回答数	該当数	割合	構成比
10代	4	0	0.0%	0.0%
20代	144	13	9.0%	17.8%
30代	149	10	6.7%	13.7%
40代	185	15	8.1%	20.5%
50代	137	12	8.8%	16.4%
60代	295	18	6.1%	24.7%
70代	80	5	6.3%	6.8%
80代	6	0	0.0%	0.0%
	1000	73	7.3%	

(R3)年代	回答数	該当数	割合	構成比
10代	11	1	9.1%	2.0%
20代	137	9	6.6%	17.6%
30代	149	7	4.7%	13.7%
40代	185	9	4.9%	17.6%
50代	137	5	3.6%	9.8%
60代	228	12	5.3%	23.5%
70代	136	7	5.1%	13.7%
80代	17	1	5.9%	2.0%
	1000	51	5.1%	

Q7 あなたは、これまでに発達障がいのある人に接したことがありますか。

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100	1000	100.0
1	ある	328	32.8	328	32.8
2	今まで見聞きした情報に基づくと、発達障がいの可能性があると感じた人に接したことがある	191	19.1	181	18.1
3	ない	291	29.1	275	27.5
4	分からない	190	19	216	21.6

Q8 Q7で「ある」、「今まで見聞きした情報に基づくと、発達障がいの可能性があると感じた人に接したことがある」と回答した方に伺います。その人とあなたとのご関係について教えてください。（複数回答）

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		519	100.0	509	100.0
1	(ご本人を含め) 家族、親戚、親しい友人・知人	156	30.1	137	26.9
2	学校関係の人	159	30.6	145	28.5
3	職場関係の人	105	20.2	135	26.5
4	福祉・教育分野などで、ご自身が専門職として接している相手	89	17.1	64	12.6
5	隣人、地域の住民（ご本人を含め）家族、親戚、親しい友人・知人以外	109	21.0	122	24.0
6	趣味活動の仲間（ご本人を含め）家族、親戚、親しい友人・知人以外	27	5.2	37	7.3
7	その他	61	11.8	23	4.5

Q9 Q7で「ある」、「今まで見聞きした情報に基づくと、発達障がいの可能性があると感じた人に接したことがある」と回答した方に伺います。あなたはなぜ、その人が発達障がい、又はその可能性があると思いましたか。あてはまるものをすべて選択してください。（複数回答）

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		519	100.0	509	100.0
1	発達障がいの診断を受けたと本人から申し出があった	108	20.8	102	20.0
2	対人関係・コミュニケーションに著しく困難が見られた	282	54.3	244	47.9
3	興味・行動に著しい偏り・こだわりが見られた	224	43.2	193	37.9
4	行動に落ち着きがない様子が強く見られた	276	53.2	236	46.4
5	読み・書きなどの学習能力の一部に強い困難が見られた	135	26.0	117	23.0
6	その他の言動、挙動に違和感を感じた	207	39.9	208	40.9
7	その他	33	6.4	21	4.1
8	特に根拠はないが、何となくそう思った	19	3.7	31	6.1

Q10 Q7で「ある」、「今まで見聞きした情報に基づくと、発達障がいの可能性があると感じた人に接したことがある」と回答した方に伺います。あなたはこれまで、発達障がいのある人に対して以下のような行動をとった経験はありますか。（複数回答）

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		519	100.0	509	100.0
1	「いつ」、「どこで」、「何を」、「どのような方法で」と具体的な手順（説明、指示など）を含めて話す	156	30.1	129	25.3
2	写真や図、絵などの視覚的な情報（説明、指示など）などの手法も併せて話す	113	21.8	100	19.6
3	相手に無理をさせていないか日ごろから気にかけておく	166	32.0	147	28.9
4	相手の長所を見つけ、肯定的に話をする	166	32.0	133	26.1
5	適切ではない行動を指摘するときは、その理由と望ましい行動についても簡潔に説明する	122	23.5	85	16.7
6	このような行動はとったことがない、機会がなかった	195	37.6	216	42.4

Q11_1 あなたは今後、発達障がいのある人に対して次のような行動をとることができると思いますか。／「いつ」、「どこで」、「何を」、「どのような方法で」と具体的な手順（説明、指示など）を含めて話す

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100.0	1000	100.0
1	できると思う	157	15.7	151	15.1
2	自身の負担にならない範囲ならできると思う	319	31.9	293	29.3
3	なかなか行動できないと思う	258	25.8	266	26.6
4	分からない	266	26.6	290	29.0

Q11_2 あなたは今後、発達障がいのある人に対して次のような行動をとることができると思いますか。／写真や図、絵などの視覚的な情報（説明、指示など）などの手法も併せて話す

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100.0	1000	100.0
1	できると思う	127	12.7	122	12.2
2	自身の負担にならない範囲ならできると思う	277	27.7	284	28.4
3	なかなか行動できないと思う	328	32.8	297	29.7
4	分からない	268	26.8	297	29.7

Q11_3 あなたは今後、発達障がいのある人に対して次のような行動をとることができると思いますか。／相手に無理をさせていないか日ごろから気にかけておく

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100.0	1000	100.0
1	できると思う	164	16.4	146	14.6
2	自身の負担にならない範囲ならできると思う	302	30.2	307	30.7
3	なかなか行動できないと思う	261	26.1	236	23.6
4	分からない	273	27.3	311	31.1

Q11_4 あなたは今後、発達障がいのある人に対して次のような行動をとることができると思いますか。／相手の長所を見つけ、肯定的に話をする

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100.0	1000	100.0
1	できると思う	171	17.1	158	15.8
2	自身の負担にならない範囲ならできると思う	297	29.7	286	28.6
3	なかなか行動できないと思う	264	26.4	248	24.8
4	分からない	268	26.8	308	30.8

Q11_5 あなたは今後、発達障がいのある人に対して次のような行動をとることができると思いますか。／適切ではない行動を指摘するときは、その理由と望ましい行動についても簡潔に説明する

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100.0	1000	100.0
1	できると思う	124	12.4	122	12.2
2	自身の負担にならない範囲ならできると思う	274	27.4	249	24.9
3	なかなか行動できないと思う	318	31.8	314	31.4
4	分からない	284	28.4	315	31.5

Q12 これまでの経験や前問を踏まえてご回答ください。あなたは今後、発達障がいのある人やその可能性があると思われる人と接する際、その人の特性に応じて、配慮ある行動をとることができると思いますか。

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100.0	1000	100.0
1	行動できると思う	142	14.2	112	11.2
2	自身の負担にならない範囲なら行動できると思う	410	41	404	40.4
3	なかなか行動できない（あまり関わらないようにする）と思う	233	23.3	215	21.5
4	分からない	215	21.5	269	26.9

Q13 今後あなたが、発達障がいのある人一人ひとりの特性に応じた配慮ある行動を求められるとき、不安に感じることはありませんか。あてはまるものをすべて選択してください。（複数回答）

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100	1000	100.0
1	発達障がいかどうか分からない中で配慮ある行動はとれない	269	26.9	204	20.4
2	相手にとって何が配慮のある行動か分からない	501	50.1	411	41.1
3	相手にとって過度な配慮（お節介）になるような気がする	280	28	269	26.9
4	一人ひとりの特性を考える以前に、発達障がいのある人に対する配慮のある行動自体がイメージできない	172	17.2	173	17.3
5	1つ1つの行動が配慮あるものかどうか判断していくことがしんどい	233	23.3	218	21.8
6	その他	7	0.7	3	0.3
7	特に不安は感じない	185	18.5	256	25.6

Q14 障がいのある人が不便を感じることなく日常生活を送るためには、社会の協力が不可欠です。障がいのある人に対して、負担になり過ぎない範囲でそれらの不便を取り除くためにとるべき行動を「合理的配慮」と言いますが、あなたはこの「合理的配慮」について知っていましたか。

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100.0	1000	100.0
1	言葉も内容も知っていた	111	11.1	96	9.6
2	聞いたことはあるが、内容はよく知らなかった	277	27.7	260	26.0
3	知らなかった	612	61.2	644	64.4

Q15 障がいを理由とした不当な扱いをなくすためには「合理的配慮（※）」の実践が求められる、という考え方に対して、あなたの考えに最も近いものを選択してください。

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100.0	1000	100.0
1	共感できる	190	19.0	156	15.6
2	ある程度は共感できる	496	49.6	466	46.6
3	あまり共感できない	50	5.0	64	6.4
4	共感できない	20	2.0	28	2.8
5	分からない、どちらとも言えない	244	24.4	286	28.6

Q16 学校や職場、地域などを含め社会全体として、発達障がいのある人にとって暮らしやすい環境になっていると思いますか。

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100	1000	100.0
1	そう思う	25	2.5	20	2.0
2	ある程度はそう思う	152	15.2	180	18.0
3	あまりそう思わない	396	39.6	345	34.5
4	そう思わない	209	20.9	165	16.5
5	分からない、どちらとも言えない	218	21.8	290	29.0

Q17 平成19年12月、国連総会において4月2日を「世界自閉症啓発デー」とする決議が採択されました。また、厚生労働省では、この日から8日までを「発達障がい啓発週間」と位置付け、自閉症をはじめとする発達障がいへの理解促進のための啓発活動を行っております。あなたは、この「世界自閉症啓発デー」及び「発達障がい啓発週間」があることを知っていましたか。

		回答数(H29)	%	回答数(R3)	%
全体		1000	100	1000	100.0
1	どちらとも知っていた	55	5.5	39	3.9
2	「世界自閉症啓発デー」のみ知っていた	58	5.8	76	7.6
3	「発達障がい啓発週間」のみ知っていた	29	2.9	54	5.4
4	どちらとも知らない	858	85.8	831	83.1

◎上記設問1「どちらとも知っていた」の年代別割合

(H29)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	4	0	0.0%	0.0%
20代	144	11	7.6%	20.0%
30代	149	8	5.4%	14.5%
40代	185	11	5.9%	20.0%
50代	137	11	8.0%	20.0%
60代	295	10	3.4%	18.2%
70代	80	4	5.0%	7.3%
80代	6	0	0.0%	0.0%
	1000	55		

◎上記設問1「どちらとも知っていた」の年代別割合

(R3)年代	回答数	該当数	割合	構成割合
10代	11	0	0.0%	0.0%
20代	137	6	4.4%	15.4%
30代	149	6	4.0%	15.4%
40代	185	11	5.9%	28.2%
50代	137	7	5.1%	17.9%
60代	228	4	1.8%	10.3%
70代	136	5	3.7%	12.8%
80代	17	0	0.0%	0.0%
	1000	39		

<調査結果の分析>

- ① 若年層(18歳～39歳)、中間層(40歳～59歳)、高齢層(60歳～90歳)という年齢層別では、年齢が高い層の方が「発達障がい」という言葉を認知している割合が高かった。
- ② 一方、発達障がいの特徴についての知識はあまり広がっていない。また、新聞や雑誌から発達障がいについての情報を得たり、家族や友人・知人との会話で話題に出たりすることが減っている。
- ③ 職場関係の人で発達障がいの可能性がある人と接したことがあるという人が増えている。「発達障がいかも」という視点で職場の人間関係をとらえる人が増加していると考えられる。
- ④ 発達障がいという言葉について知っている層の方が、発達障がいのある人やその可能性があると思われる人と接する際、その人の特性に応じて、配慮ある行動をとることができると思うと答えた割合が高かった。
- ⑤ 発達障がいの人に接した経験がある人の方が、経験のない人よりも、発達障がいのある人やその可能性があると思われる人と接する際、その人の特性に応じて、配慮ある行動をとることができると思うと答えた割合が高かった。
- ⑥ 接し方のポイントや必要な配慮についての知識はあまり広がっていない。
- ⑦ 合理的な配慮についても、どうすればいいのかわからない人が増えている。

(発達障がいに関するQ2の情報源⇒「Q4」)

・60代以上では、「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌」、「官公庁からの広報物」、「その他団体の啓発チラシ等」、30代以下では、「インターネット」「授業や講習、セミナー等」「学校や職場等」を情報源とする回答が多かった。

(社会的な発達障がいへの理解度、それに基づく合理的配慮⇒「Q6-4③相手にとっての社会的障壁をイメージできる、④社会的配慮を取り除くための配慮をイメージできる」両方できる)

・平成29年10月31日の第2回部会において、平成29年度マーケティングリサーチによる発達障がいに関する調査の数字7%(Q6-4③④の両方ともイメージできる)を新プランにおける出発点(基準点)とした。

・目標値については、平成29年度と同調査における身体障がいの数字の16%を令和2年度の目標値とした。

・調査結果については、5.1%となり目標値の16%には及ばなかった。

・平成30年度から令和2年度までの計画期間3年間のうち、おおそ半分にあたる一年半の間、新型コロナウイルス感染症対策を実施したため、講演会の中止による発達障がいに関する普及啓発の機会の減少や、人流抑制などによる発達障がいのある方との接触機会の減少により合理的配慮のイメージに対する理解が進まなかったのではないかと推察される。

一方、年代別の割合では、令和3年度調査において、サンプル数が少ない10代と80代を除く20代から70代では、20代が6.6%と最も高く、次いで60代が5.3%、70代が5.1%と続いている。20代から70代の割合を平均すると5%となるが、±1.5%の範囲で推移しており、世代間に大きな差異はなく、幅広い世代に理解が進んでいるものと伺われる。

(世界自閉症啓発デー・発達障がい啓発週間の認知度⇒「Q17」)

・どちらか一方を知っている方は増えており、両方知らない方は減っており、世界自閉症啓発デーのブルーライトアップなどの地道な周知活動に一定の効果があつたものと推察される。

【今後の方針】

・世界自閉症啓発デーや発達障がい啓発週間の周知活動について、一定の効果が認められることから、大阪城天守閣や万博記念公園太陽の塔等のブルーライトアップや啓発週間の講演会など、様々な機会を通じて合理的配慮のイメージに対する理解が進むよう、引き続き取り組みが必要である。

広い世代に社会的な発達障がいの理解を深めていただくよう、新型コロナウイルス感染症対策にも配慮しつつ、年代別に広報媒体を工夫するなどにより引き続き啓発活動に努めるべき。